事例２

交流・居場所

～　こどもを見守るナナメの関係をつくる場所　今日も元気に「ただいま！おかえりなさい！」　～

【神奈川区事例】「ふれあいっこ三ツ沢」（平成 29 年９月開設 ）

※平成 30 年６月撮影

団体紹介

・団体名：ふれあいっこ三ツ沢
・活動者の受講年度：平成 27 年度（第１期生）・平成 28 年度（第２期生）
・活動者数： 185 人（延べ人数）
・活動実績：令和元年度は月に１回開催、約 222 人（延べ人数）が参加
・活用制度：かながわ地域支援補助金（平成 29 年度～令和元年度）
　　神奈川区社会福祉協議会のふれあい助成金（令和元年度～令和２年度）

活動内容

「ふれあいっこ三ツ沢」は、子どもの生活課題の解決を目的に、神奈川区三ツ沢地区の主任児童委員・民生委員の有志を中心に、地域のボランティア活動者などにより結成された団体です。

同じエリアの卒業生２人が、お互いの「夢プラン（地域づくり大学校の卒業制作として地域で叶えたい夢プランを描くもの)」の共通性に気づき、三ツ沢地区連合自治会の協力を得て、平成 29 年９月に自治会館で子ども食堂（三ツ沢東町）を実施中です。平成 30 年９月には三ツ沢西町に２か所目の子ども食堂をオープンしました。食堂の他、学習支援や体験学習も行っています。

毎月２回の開催日は、子どもや親子連れで賑わいます。地域の有志のボランティア（高齢者向けの配食サービス「ふれあい会」でのボランティア経験者）で、それぞれの回の料理を担当しています。食事を待つ時間や食後、神奈川大学や横浜国立大学の学生ボランティアが、子どもの遊び相手となり、勉強を見てくれます。

代表の小川さんは、子どもたちとの関係は、家族でも学校の先生でもない、ナナメの関係だと思い、子どもが地域でさまざまな大人と出会い、多方面から子どもの支援をしていきたいと考えています。

令和２年２月末、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動を休止しましたが、同年５月に「食品頒布会」を開始しました。

また、令和３年度から、学習支援の拠点として、ふれあいっこ三ツ沢南町・上町を開設しました。

「ふれあいっこ三ツ沢」は、食事支援の理念として、「食べることは生きること」の根本的理念のもとに開催してきました。コロナ禍で子ども食堂が開催できない状況ですが、学習支援を行っているのは、代表の小川さんは、「食」の次に大事なのは「教育」と捉え、家庭環境の違いで未来ある子供の可能性を奪ってはいけないと思ったためです。SDGs では、地球上の「誰一人取り残さない」持続可能な開発目標４「質の高い教育をみんなに」を達成することが主旨と考えています。

（代表の小川さん)「地域大受講は、主任児童委員の仲間に誘われたのがきっかけです。地域大で学んだことは、色々ありますが、既に活動している所への訪問で、お話を聞いたことで、私にも出来るかもと思えるようなイメージトレーニングになりました。地域大への参加を通して実現したことは、『ふれあいっこ三ツ沢』の開設です。地域大に参加していなかったら、実現できなかったと思っています。」